

短歌

五三番

藤原の ふちはら 大宮仕へ おほみやつか 生れつくや あ 娘子がともは をとめ
ともしきろかも

だいほう しんちゆう 大宝元年辛丑の秋九月、
おほきすめらみこと 太上天皇、
きのくに 紀伊国

しあたま に幸す時の歌

五四番

巨勢山の こせやま つらつら椿 つばき つらつらに見 み つつ俣 しの
はな 巨勢の春野を こせ はるの

五五番

あさもよし 紀人 きひと ともしも 真土山 まつちやま 行き来 ゆく と見 み
らむ 紀人 きひと ともしも